



絵には様々な見方があります。自分なりの見方をワークシートによる鑑賞を通し考え・感じてみてください。

葉祥明は空気を描く画家とも言われています。
あなたはどんな空間を感じますか……

●ある詩画集に掲載された作品です。



・何と言う題名の詩画集でしょう。

・この詩画集の詩は葉祥明さんではなく、今道友信さんという哲学者が書いたものです。今道さんが書いた詩に葉祥明さんが絵を添えました。
のタイトルは何でしょう。

・今道友信さんの詩に葉祥明さんが絵を描いた本がもう一冊あります。本の題名は何でしょう。

●ある絵本の一場面です。

・星の子が星の粉で気球を作っている場面です。
何という絵本でしょう。

・気球に乗るのは、葉祥明さんオリジナルキャラクターの白い犬のジェイクです。ジェイクは色々な場所に冒険します。気球をおりた後に行った場所はどこでしょう。



*葉祥明さんは夜の絵もたくさん描いています。どの作品もこの絵の夜空のように空は紺色で描かれ、暖かみと光を感じます。なるべく黒色を使わずに描き、闇ではなく光をかんじる画面を心がけています。

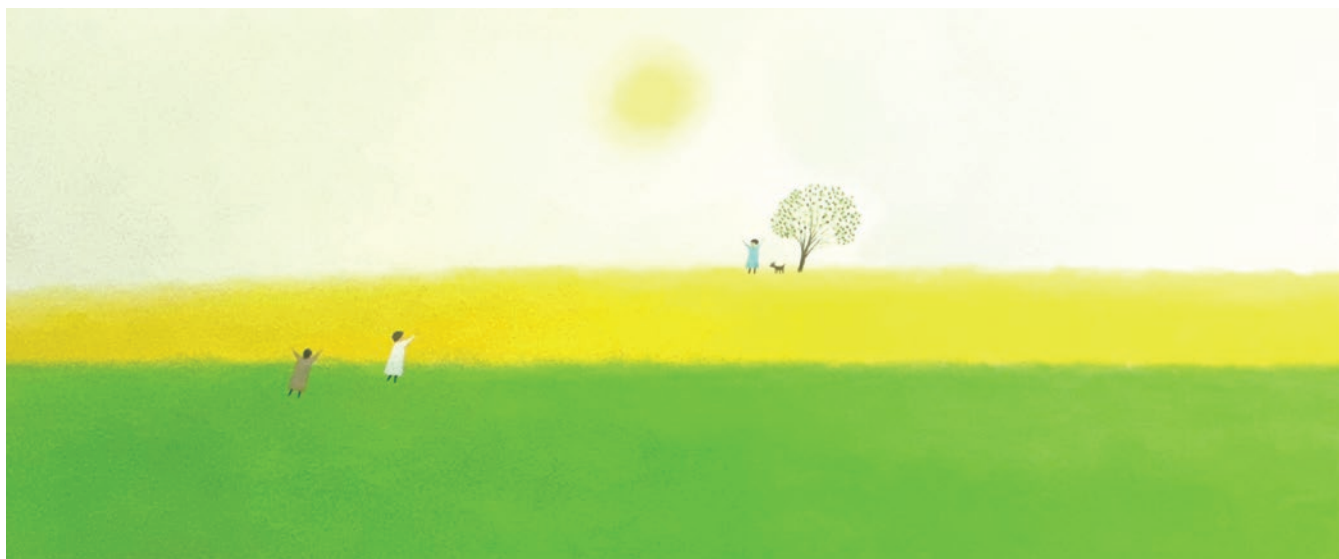
●「空色テスト」というお話の一場面です。



* 1975年、葉祥明さん初期の作品です。
雑誌『いちごえほん』の中で、公募による詩やお話に作家がイラストを添える企画で掲載されました。当時小学2年生が書いたお話に葉祥明さんが絵を描きました。

* 先ほどの気球とジェイクが描かれた夜空の作品と比べると、少し色がくすんでいるのが分かります。初期の作品の特徴のひとつで、海外のスタイリッシュでグレイッシュな絵本に惹かれていた影響です。

* 挿絵を描く際は、言葉や物語から絵を創りますが、葉祥明が創作絵本を描く時、一枚の絵から物語が広がり、絵本が出来ることもあります。



・では、この絵を観て物語や詩を考えてみましょう。あなたはどのようなお話が浮かびますか？

* 葉祥明さんの作品には、観る人が入り込む「余地」があります。絵の中に風や空気、太陽の暖かさを感じ、観る人各々のストーリーが紡がれます。その時の自分と、葉祥明さんの絵を通して対話しながら鑑賞してみましょう。